

【消化器系の病気】

透析を受けている方の、C型肝炎ウイルスに感染した割合は約13%で、一般の人の約10倍です。そのうち慢性経過をたどる方が多く、肝硬変や肝がんを合併する割合も健常人の5~7倍といわれています。また、脾臓にのう胞性疾患(水分を貯めた袋状のもの)が非常に多く、脾のう胞性病変は癌化するおそれもあり経過観察が重要といえます。

日本透析医学会の調査によると、悪性腫瘍による死亡率は10.5%前後であり、死亡原因の第4位です。透析患者様はもともと免疫力が低下しているため、一般の人に比べ悪性腫瘍の合併率が高く、特に腎癌の発生率は数十倍と言われて

《消化器系の検査》

- ・腹部CT検査
- ・腹部超音波検査(腹部エコー)
- ・腹部MRI検査
- ・胃・十二指腸内視鏡検査(胃カメラ)
- ・大腸内視鏡検査(CF)



他にも透析合併症はまだまだありますが、死亡リスクの高い合併症を中心に書かせていただきました。偕行会グループでは合併症の早期発見のために、定期的に検査を行い、すばやく楽に治せる合併症対策を実施しています。これが私たちのモットーです。その結果、偕行会グループの患者様は全国の透析患者様に比べて、より快適な透析生活を送っていただけていると感じております。

症状が出てからでは手遅れになる場合がありますので、定期検査は面倒くさがらないで検査を受けるようにしてください。私たちも皆様が更なる快適な透析生活を送っていただけるように、取り組んでいきたいと思っております。

